

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成26年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
26-4	表面処理技術を応用した腐食鋼桁端部の性能回復技術に関する研究開発	琉球大学 准教授 下里 哲弘	B
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>腐食鋼桁端部に対し高耐久性の防食技術開発を目的として、アルミナと亜鉛の混合粉末を用いた低温低圧型金属溶射「Cold Spray 表面処理技術」を応用し、防食性能の解明、現場適用技術の開発、実橋実証、及びCS 防食面に適用した当板と炭素繊維工法の耐荷性能を検証した研究開発。</p> <p><事後評価結果></p> <p>厳しい環境と施工条件下において適用可能な技術が開発・検証されており、また実際の現場において成果の活用が期待できることから、研究目的は概ね達成され、当初の目的に適った成果が得られたものと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 実用化に向けて、本研究の成果の活用にあたっての課題や留意点を実務者が理解できるよう整理されることを期待する。2. 現象的な成果は十分である一方で、例えば防食層の強度において腐食の除去と凹凸の生成による密着度の関係性に論理的な曖昧さがあり、異質な金属の接合理論の応用などが今後期待される。3. 今後、コスト、リバウンド率、耐荷性能等がさらに明確化されることを期待する。4. 今後の研究においては、長期にわたる効果の持続性や非施工部におけるマクロセル腐食の発生の可能性の検証が実施されることを期待する。5. 今後も引き続き様々な条件の現場での施工事例の蓄積や長期にわたる安定性の検証を行うために、道路管理者等の協力が必要である。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第32回新道路技術会議において審議したものである。